

企画展 ミステリーの系譜

展示資料より

江戸川乱歩「人間椅子」草稿
立教大学江戸川乱歩記念
大衆文化研究センター蔵
「苦楽」1925(大正14)年10月号に
発表された形と大きく異なる。

竹中英太郎 画「ココナットの賣」
(夢野久作)挿絵原画
湯村の杜・竹中英太郎記念館蔵
「新青年」1931(昭和6)年4月号掲載



そのことばのつづきへ

企画展 ミステリーの系譜

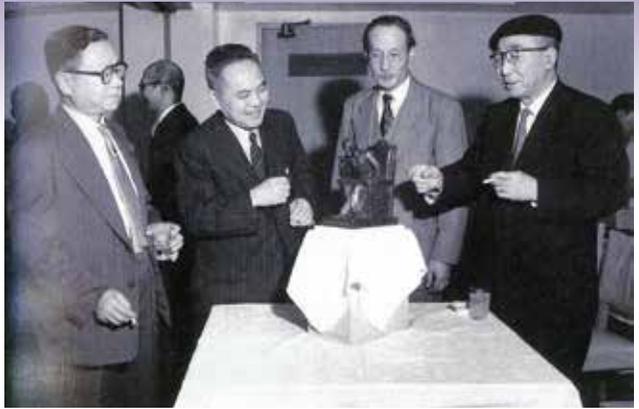
2021(令和3)年9月18日(土)~11月21日(日)

卓抜な着想とトリックで傑作を書き、日本の探偵小説を牽引した江戸川乱歩 (1894~1965)。

金田一耕助シリーズで本格的な長編推理小説の興盛へと導く横溝正史 (1902~1981)。

「人生の阿呆」で直木賞を受賞し、「探偵小説」を深化させた「推理小説」という名称を提唱した甲府市出身の木々高太郎 (1897~1969)。

日本のミステリー (推理小説) の草創期から現代までをたどり、その魅力と人気の秘密を探ります。



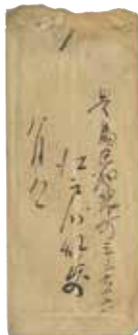
えどがわらんぼ
江戸川乱歩賞正賞のシャーロック・ホームズ像披露パーティー
1956(昭和31)年5月

きぎなたろう うだる
左から木々高太郎、大下宇陀児、制作者の堀進二、江戸川乱歩。



よこみぞせいし
横溝正史「八つ墓村」原稿
第11回「鬼火の淵」冒頭

世田谷文学館蔵
「新青年」1950(昭和25)年5月号掲載



えどがわらんぼ きぎなたろう
江戸川乱歩 木々高太郎
書簡

1935(昭和10)年8月8日

当館寄託資料

乱歩が編集していた「日本探偵傑作集」に、
木々の「網膜脈視症」を入れることを伝える。

木々高太郎から笠井潔まで——山梨県とミステリ

北村 薫

権田萬治は「木々高太郎論」の中でこう書いています。

木々高太郎は、山梨県西山梨郡山城村の一貧村に生まれた。冬はハケ岳おろち風でたまらなく寒く、夏はまた耐えがたく暑くなるが、春秋の空は澄み切つて美しい。

山梨の医師の家に生まれた少年は、長じて慶応大学医学部に進み大脳生理学を専攻。さらにソ連に行き、条件反射の研究で世界の注目を集めていた、パブロフ博士のもとでも学びました。一年間ではありますが、昭和初期の、ソ連への留学は驚くべきことですよ。思い立ったら断じて行かう研究心と、詩人になりたかつたという文学への思いが結び付き、やがて木々高太郎の特色ある作品群となつて結実するのです。

当時、科学知識普及会評議員同士で面識のあつた佐野昌しのぶは、作家海野十三うみのじゅうぞうとして活躍していました。雑誌「新青年」の編集長から新人待望論を聞いた佐野が、木々に迫つたのは、そうさせるものが彼にあつたわけですよ。

——どうしても書け、半分しか出来なかつたら、あとは俺が書いてやる。
——それじゃ、しばらく時間をくれ。

——という、熱いやり取りがあつたさうですよ。

医学関係のミステリといえば、すでに小酒井不木こさかい ふぼくという先人がいました。同じようなものにはいたくない。そこで木々が、精神分析を素材にして書き上げたのが処女作「網膜脈視症」もうまくろくしじやうです。彼でなければ書けない、古くなる、ことのない名品です。評判になり、作家木々高太郎としての活躍が始まりました。

本名、林 謙。江戸川乱歩という筆名が、エドガー・アラン・ポーからきていることは有名ですが、木々の場合の、本名を分解してペンネームを作るというのも、まことにミステリ的です。

「文学少女」「永遠の女囚」などの、情熱をテーマとした作品は、今も力を失うこととはありません。

その業績のひとつとして、忘れてはならないのは松本清張に作家への道を開いたことですよ。直木賞候補となつた「西郷札」を選考委員であつた木々が読み、その才能をみつめ、「三田文学」に「記憶」「或る『小倉日記』伝」を書かせたのです。この後者が第二十八回の芥川賞を受賞することになるので、木々は日本ミステリ界の恩人といつていい。

松本は、「木々先生のこと」で、

先生は初めて日本の推理小説に知性と文学性を与えられた作家であり、推理小説における私の永遠の師匠である。

と、最大限の敬意を表しています。また、木々の直木賞受賞作『人生の阿呆』には、ソ連留学の経験者ならではの、ウラジオストックからバイカルを超え、雪原を行くシベリヤ鉄道の旅の写真が付されています。松本は、

この印象が強く私をとらえ、のちに私も自分の「点と線」でそのアイデアを勝手に継承した。

と、書いています。写真も得意であつた松本らしい言葉です。

『点と線』は、それまでミステリを読んでいた層だけでなく、一般の読者からも圧倒的支持を得ました。ミステリの幅を大きく広げた、歴史に残る作品です。その初めの発表形態に、木々高太郎に習うところがあつたというのは興味深いことです。

ジャンルとしての《ミステリ》は、現代においてまことに多様な形を見せています。謎解きの興味を中心においた本格ものから、ハードボイルド、サスペンス、さらにはホラーに至るまでその範疇に入れる考え方もあります。作家の数だけミステリがあるといつてもいいくらいです。その豊かさが、読者を魅きつけるのです。

山梨の生んだ木々高太郎は、戦前から自分ならではの花を咲かせた一人ですよ。そしてまた現代の山梨に目を向ければ、北杜市に笠井潔がいます。重厚な傑作『サマー・アポカリプス』などを発表、作家としても評論家としても現代ミステリを牽引するその存在の大きさは、ひとときわ光るものです。

(作家)

常設展

第1室～第4室(展示室A) 展示替え

樋口一葉、芥川龍之介、飯田蛇笏など山梨県出身・ゆかりの作家を紹介する各コーナーの展示替えとともに、第1室では期間限定展示を次のとおり行います。

秋の常設展

9月14日(火)～11月28日(日)
山梨の現代作家 辻村深月



撮影
大森 忠明

冬の常設展

11月30日(火)～3月6日(日)
山梨の現代作家 神永学



第5室(展示室B)の展示替え

山梨出身・ゆかりの文学者104名をジャンルごとに前後期2期に分けて展示しています。

詩・短歌・俳句・川柳・漢詩

10月2日(土)～3月6日(日)

※第5室は、8月31日(火)～10月1日(金)、11月23日(火)は休室します。

新収蔵品展

2022年1月29日(土)～3月21日(月・祝)
観覧無料

夏目漱石の書簡、飯田蛇笏の俳句軸装、芥川龍之介の書簡、井伏鱒二の原稿など、2020～2021年にかけて、新たに収蔵した資料を展示します。



夏目漱石 津田青楓宛書簡 額装(部分) 1913(大正2)年6月18日
金之助は漱石の本名。小川千麩の絵を受け取った礼と、自身も「二三枚」絵を描いた旨を述べる。



芥川龍之介 小沢碧童宛書簡 軸装(部分)
1921(大正10)年1月6日
碧童の雅号として「最仲」を勧め、自作の短歌2首を披露している。

イベントガイド

企画展「ミステリーの系譜」関連イベント

いずれも参加無料 要申込

京極夏彦 講演会「探偵と民俗学者、そして陰陽師」

10月23日(土) 午後1時30分～午後3時

会場:講堂 定員240名 座席指定

申込方法

*往復はがきでお申し込み下さい。1枚で2人までご応募いただけます。
締切10月8日(金)必着
往信欄裏面に①京極夏彦講演会、②郵便番号、③住所、④氏名、⑤電話番号、
⑥参加希望の人数、⑦代表者以外の参加者
返信欄表面に①郵便番号、②住所、③氏名をご記入のうえ
当館までお申し込みください。
*申し込み多数の場合は、抽選のうえ結果を開催日の1週間前頃までにお送りします。



撮影 森清
Photo MORI Kiyoshi

映画会

いずれも午後1時30分～ 会場:講堂 定員各100名 定員になり次第申し込みを締め切ります。

10月31日(日)「悪魔の手毬唄」 原作:横溝正史 監督:市川崑

出演:石坂浩二、岸恵子、若山富三郎 他 1977年 東宝 カラー 144分

申し込み方法:10月16日(土)より電話でお申し込みください。

11月7日(日)「影なき声」 原作:松本清張 監督:鈴木清順

出演:南田洋子、二谷英明、金子信雄 他 1958年 日活 モノクロ 92分

申し込み方法:10月23日(土)より電話でお申し込みください。

朗読公演会 「ベルベットのうさぎ」

12月11日(土) 午後2時～

出演 「紺野美沙子の朗読座」

会場 講堂 定員240名 座席指定 参加無料 要申込

申込方法

*往復はがきでお申し込み下さい。1枚で2人までご応募いただけます。
締切11月19日(金)必着
往信欄裏面に①ベルベットのうさぎ、②郵便番号、③住所、④氏名、⑤電話番号、
⑥参加希望の人数、⑦代表者以外の参加者
返信欄表面に①郵便番号、②住所、③氏名をご記入のうえ当館までお申し込み
ください。
*申し込み多数の場合は、抽選のうえ結果を開催日の2週間前頃までにお送りします。



年間文学講座

参加無料 要申込

講座1「2021—古典文学入門」

9月24日(金)	『百人一首』をよむ	講師 佐藤明浩(都留文科大学教授)
10月22日(金)	唐詩入門	講師 寺門日出男(都留文科大学教授)
11月19日(金)	「上代文学と絵本③」	鈴木武晴(都留文科大学教授)
12月17日(金)	「上代文学と絵本④」	鈴木武晴(都留文科大学教授)

講座2「ジャンルを超える文学の可能性」 講師 大村梓(山梨県立大学准教授)

9月25日(土)	俵万智のチョコレート世界観—短歌と現代語訳
10月16日(土)	ミステリー小説の系譜—江戸川乱歩から東野圭吾まで
11月6日(土)	村上春樹の描く日本—日本語と英訳の狭間で
12月18日(土)	近現代詩と他ジャンルの出会い—モダニズム詩から最果タヒまで
1月29日(土)	文学作品に描かれる都市—川端康成『浅草紅団』

講座3「山梨の文学」

9月19日(日)	江戸川乱歩と木々高太郎	講師 中野和子(当館学芸員)
11月28日(日)	励まし、励まされ 八木義徳と野口富士男—書簡を軸に	講師 保坂雅子(当館学芸課長)

講座1・2・3とも午後2時～ 会場 研修室 定員40名

申込方法:開催日の2週間前からお電話でお申し込みください。先着順で定員になり次第締切となります。

名作映画鑑賞会

参加無料 要申込

1月9日(日)	「ブタがいた教室」	原案:黒田恭史	監督:前田哲
	出演:妻夫木聡・大杉漣・田畑智子 他	2008年	日活 109分
1月22日(土)	「二十四の瞳」	原作:壺井栄	監督:朝間義隆
	出演:田中裕子・紺野美沙子・高木美保 他	1987年	松竹 129分

いずれも午後1時30分～ 会場 講堂 定員100名

申込方法:開催日の2週間前から電話でお申し込みください。先着順で定員になり次第締切となります。

新型コロナウイルス感染症拡大を受けて、各イベントを延期(または中止)する場合があります。また、内容を変更、入場制限をする場合もございます。予めご了承ください。ご来館前に当館ホームページを必ずご確認ください。

閲覧室

入場無料

閲覧室資料紹介

「ミステリーの世界」

9月17日(金)～11月21日(日)

「信玄公生誕500年記念 文学の中の武田信玄」

10月15日(金)～11月7日(日)

「生誕100年

矢崎源九郎を読む」

2月4日(金)～4月3日(日)



文学者の誕生日にちなんだ資料紹介

与謝野晶子(12月7日生まれ) 11月26日(金)～12月16日(木)

井伏鱒二(2月15日生まれ) 1月28日(金)～2月17日(木)

曾根崎保太郎(3月11日生まれ) 3月11日(金)～3月31日(木)

寄贈資料

(令和3年2月～7月)

- 飯田文弥氏より「夢中綺談」和綴本。
- 滑志田隆氏より森澄雄「桑解くやひかりにかすみ雪の峰」額装など特殊資料4点、図書6点。
- 中野宗夫氏より「梵字碑にザリガニ」挿絵原画26点。
- 佐野美代子氏より「鷹を飼う」挿絵原画25点。
- 柏原恵美氏より「スーパームーン」挿絵原画20点。
- 渡辺勝子氏より新田次郎「黄葉紅葉信玄の見た甲斐の山」色紙など2点。
- 笛木亮三氏より「劇団民藝公演 赤ひげ」パンフレットなど特殊資料82点、図書102点、雑誌12点。
- 廣瀬町子氏より渡辺水巴「大空のしぐれ匂ふや鵬の鬣」軸装1点。
- 中村吾郎氏より土橋治重 中村吾郎宛書簡など特殊資料2点、図書11点、雑誌1点。
- 末利光氏より「甲陽短信」など特殊資料4点、図書6点、視聴資料2点。
- 三橋透氏より「市制40周年記念 三木露風展「赤とんぼ」のうた」パンフレットなど特殊資料11点、図書24点、雑誌18点。
- 備仲臣道氏より「叙事詩 安曇野の人」印刷物1点、雑誌1点。

次の皆様からも図書・雑誌・視聴資料をご寄贈いただきました。(敬称略)

浅川健一	岩月宏史	川島幸希	小島俊郎	佐藤真樹	秦恒平	平松伴子
浅川玲子	兎束保之	川島秀一	五味正弘	玉手洋一	馬場美由木	深沢美恵子
芦沢誉明	大橋毅彦	桐谷文子	小山弘明	成島淑子	原貴子	舟久保俊子
石割透	大森捷二	窪川美代子	雑賀絹代	難波田節子	ビショップ山田	守屋喜彦
一瀬公弘	小澤俊総	黒沢忍	最光蝕	能村研三	平井一夢	山下健市
						吉奥政子

この他に団体の方々からもご寄贈いただいております。

ご案内

Information

内容が変更になる場合がございます。ご来館前に当館ホームページを必ずご覧ください。

開館時間

展示室	午前9時～午後5時 (入室は午後4時30分まで)
閲覧室	午前9時～午後4時
ミュージアム ショップ	午前9時30分～午後4時20分
カフェ	午前9時30分～午後5時 (オーダーストップ午後4時30分)

休館日等(9～3月)

9月	6・13・27日
10月	4・11・18・25日
11月	1・8・15・22・29日
12月	6・13・20日
*年末年始は12月27日(月)～2022年1月1日(土)まで 休館します。	
1月	4・11・24・31日
*1月12日(水)～1月18日(火)は館内整備等のため休館します。	
2月	7・14・21・28日
3月	7・14・22・28日

展示室観覧料

	常設展		美術館との 共通券	企画展		常設展と企画展の セット券
	個人	団体 (20名以上)		個人	団体	
一般	330円	260円	680円	600円	480円	740円
大学生	220円	170円	340円	400円	320円	490円

*高校生以下の児童・生徒、65歳以上の方(企画展は県内在住者のみ)、障害者手帳をご持参の方、およびその介護をされる方は無料です。
*団体料金は20名様以上の団体、前売券、県内宿泊者割引適用。*11月20日(土)の県民の日はどなたでも無料。

施設利用のお申し込みについて

- 講堂・研修室・茶室の申込みは、使用しようとする日の6ヶ月前から原則として10日前までです。
- お申込みは開館日の9:00より先着順で受付けます。文学館チケット売場まで申請者様の印鑑をお持ちのうえ、お越しください。受付時間は9:00～16:30です。
- いずれも休館日は受付けません。使用上の注意はお申込みの際、ご説明いたします。

交通のご案内

中央自動車道甲府昭和インターチェンジより

- 料金所を昇仙峡・湯村方面へ出て200m先を左折、西条北交差点左折、アルプス通りを約2km直進、貢川交番前交差点を左折、国道52号を約1km左側。

JR中央本線甲府駅より

- 甲府駅バスターミナル(南口)1番乗り場より御勅使・竜王駅経由敷島営業所・大草經由韮崎駅・貢川団地各行各きのバスで約15分「山梨県立美術館」下車。
※甲府駅からのバスの時刻表は(山梨交通HP)よりお調べいただけます。
- タクシーで約15分。



山梨県立文学館

ホームページ



そのことばのつづきへ



山梨県立文学館

Yamanashi Prefectural Museum of Literature

〒400-0065 山梨県甲府市貢川1-5-35
TEL:055-235-8080 FAX:055-226-9032
<https://www.bungakukan.pref.yamanashi.jp/>